

3. 鳥類

【選定・評価方法の概要】

移動能力が大きい鳥類は、東京都の島しょ部においても渡り鳥であるシギ・チドリ類やカモ類などは本土と共通種が多いが、繁殖する鳥類においては特有の鳥類相をもつ。陸鳥類では、固有種や固有亜種が多く、種や亜種の進化の実例を見ることができる。また、海洋性の鳥類の営巣地として機能している場所も多く、日本近海だけでなく太平洋の生物多様性保全上大きな役割も持つといえる。

検討対象種は、陸上に加えて島しょ近海を重要な生息環境としていると考えられる種については含めることとした。

伊豆諸島では、32 科 85 種・亜種を検討対象種とした。本土に近い伊豆諸島は、本土と共通種が多いが、アカコッコやイイジマムシクイなど固有種に加えて、タネコマドリやモスケミソサザイなど固有亜種が存在する。ヤマガラは、島ごとに亜種が分かれており、進化の実例を示すものとなっている。

小笠原諸島では、23 科 39 種・亜種を検討対象種とした。小笠原諸島は、本土からの距離が大きいためメグロ、アカガシラカラスバトなど固有種・固有亜種が多いが、オガサワラマシコやオガサワラカラスバト、オガサワラガビチョウなど、日本で絶滅した鳥類の多くが小笠原諸島に集中する。

検討にあたっては、定量的に判定することを原則とした。ランクの判定では、広域的な分布や生息状況を考慮に入れた。

【選定・評価結果の概要】

<伊豆諸島>

検討の結果、CR（絶滅危惧ⅠA類）5 種、EN（絶滅危惧ⅠB類）10 種、VU（絶滅危惧Ⅱ類）10 種、NT（準絶滅危惧）12 種、DD（情報不足）4 種となった。

鳥類に与える脅威としては、北部の神津島や新島では森林面積が少なくなっているため、森林の伐採があるとヤマガラ類など森林性の鳥類への影響が大きいと考えられる。三宅島は、雄山の噴火によりウチヤマセンニュウの国内最大の生息地であった火口原が消失したほか、続く火山ガスにより植生回復が遅れており、陸生鳥類に大きな影響を与えている。また、人為的に導入されたニホンイタチが増加し、アカコッコの生息数の減少が著しい。御蔵島では、近年野外でのネコを目撃が増えており、今後、オオミズナギドリへの影響に留意が必要である。海鳥であるカンムリウミスズメの営巣地は三宅島近傍の大野原島や神津島近傍の祇苗島などの小島に存在する。営巣地へのネズミの侵入は卵やヒナの捕食を生じ、釣り人の上陸は繁殖活動を攪乱すると考えられる。

<小笠原諸島>

検討の結果、EX（絶滅）11 種、CR（絶滅危惧ⅠA類）4 種、EN（絶滅危惧ⅠB類）5 種、

VU（絶滅危惧Ⅱ類）5 種、NT（準絶滅危惧）3 種、LP（絶滅のおそれのある地域個体群）1 種となった。

鳥類に与える脅威としては、森林の伐採や外来植物や外来草食動物による植生環境の変化の影響が大きい。また、海洋性鳥類のコロニーへのネズミ等の侵入リスクは常に存在し、一度侵入を許せば個体群に壊滅的な打撃を与えるおそれがあるので、ネズミ等が侵入しないような取組が必要である。アカガシラカラスバトやアホウドリ類については保護増殖事業が進められていること、外来生物対策も実施されていることから生息状況や生息環境条件の回復も期待される。

（金井 裕）

鳥類(鳥しょ部)

【記号凡例】

[EX]絶滅 [EW]野生絶滅 [CR]絶滅危惧ⅠA類 [EN]絶滅危惧ⅠB類 [VU]絶滅危惧Ⅱ類
[NT]準絶滅危惧 [DD]情報不足 [LP]絶滅のおそれのある地域個体群 [*]留意種

■伊豆諸島

和名	学名	東京都ランク (伊豆諸島)	環境省 ランク
ミズナギドリ目	PROCELLARIIFORMES		
アホウドリ科	Diomedidae		
アホウドリ	<i>Diomedea albatrus</i>	VU	VU
コアホウドリ	<i>Diomedea immutabilis</i>	CR	EN
クロアシアホウドリ	<i>Diomedea nigripes</i>	NT	
ミズナギドリ科	Procellariidae		
オオミズナギドリ	<i>Calonectris leucomelas</i>	NT	
ウミツバメ科	Hydrobatidae		
コシジロウミツバメ	<i>Oceanodroma leucorhoa leucorhoa</i>	DD	
ヒメクロウミツバメ	<i>Oceanodroma monorhis</i>	VU	VU
オーストンウミツバメ	<i>Oceanodroma tristrami</i>	NT	VU
ペリカン目	PELECANIFORMES		
カツオドリ科	Sulidae		
カツオドリ	<i>Sula leucogaster plotus</i>	NT	
ウ科	Phalacrocoracidae		
ヒメウ	<i>Phalacrocorax pelagicus pelagicus</i>	VU	EN
コウノトリ目	CICONIIFORMES		
サギ科	Ardeidae		
ミゾゴイ	<i>Gorsachius gousagi</i>	CR	EN
ササゴイ	<i>Butorides striatus amurensis</i>	VU	
アマサギ	<i>Bubulcus ibis coromandus</i>	NT	
チュウサギ	<i>Egretta intermedia intermedia</i>	VU	NT
コサギ	<i>Egretta garzetta garzetta</i>	NT	
クロサギ	<i>Egretta sacra sacra</i>	CR	
カモ目	ANSERIFORMES		
カモ科	Anatidae		
オシドリ	<i>Aix galericulata</i>	CR	DD
タカ目	FALCONIFORMES		
タカ科	Accipitridae		
ミサゴ	<i>Pandion haliaetus haliaetus</i>	EN	NT
ノスリ	<i>Buteo buteo japonicus</i>	VU	
サシバ	<i>Butastur indicus</i>	CR	VU
ハヤブサ科	Falconidae		
ハヤブサ	<i>Falco peregrinus japonensis</i>	EN	VU
シマハヤブサ	<i>Falco peregrinus furuitii</i>	DD	CR
チドリ目	CHARADRIIFORMES		
シギ科	Scolopacidae		
ヤマシギ	<i>Scolopax rusticola</i>	NT	
ヒレアシシギ科	Phalaropodidae		
アカエリヒレアシシギ	<i>Phalaropus lobatus</i>	DD	
ウミスズメ科	Alcidae		
ウミスズメ	<i>Synthliboramphus antiquus</i>	DD	CR
カンムリウミスズメ	<i>Synthliboramphus wumizusume</i>	VU	VU
ハト目	COLUMBIFORMES		
ハト科	Columbidae		
カラスバト	<i>Columba janthina janthina</i>	EN	NT
フクロウ目	STRIGIFORMES		
フクロウ科	Strigidae		
トラフズク	<i>Asio otus otus</i>	NT	
オオコノハズク	<i>Otus lempiji semitorques</i>	EN	

和名	学名	東京都ランク (伊豆諸島)	環境省 ランク
アオバズク	<i>Ninox scutulata japonica</i>	EN	
アマツバメ目	APODIFORMES		
アマツバメ科	Apodidae		
アマツバメ	<i>Apus pacificus kurodae</i>	NT	
キツツキ目	PICIFORMES		
キツツキ科	Picidae		
ミヤケコゲラ	<i>Dendrocopos kizuki matsudairai</i>	VU	
スズメ目	PASSERIFORMES		
ミソサザイ科	Troglodytidae		
モスケミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes mosukei</i>	EN	EN
ツグミ科	Turdidae		
タネコマドリ	<i>Erithacus akahige tanensis</i>	VU	VU
トラツグミ	<i>Zoothera dauma aurea</i>	NT	
アカコッコ	<i>Turdus celanops</i>	EN	EN
ウグイス科	Sylviidae		
ウチヤマセンニュウ	<i>Locustella pleskei</i>	EN	EN
イイジママシクイ	<i>Phylloscopus ijimae</i>	VU	VU
ヒタキ科	Muscicapidae		
オオルリ	<i>Cyanoptila cyanomelana cyanomelana</i>	*1	
シジュウカラ科	Paridae		
ナミエヤマガラ	<i>Parus varius namiyei</i>	EN	EN
オーストンヤマガラ	<i>Parus varius owstoni</i>	EN	VU
ホオジロ科	Emberizidae		
クロジ	<i>Emberiza variabilis</i>	NT	
アトリ科	Fringillidae		
ハギマシコ	<i>Leucosticte arctoa brunneonucha</i>	NT	

和名、学名、配列は、日本鳥類目録編集委員会(編), 2000. 日本鳥類目録 改訂第6版. 日本鳥学会. に準拠した。

【留意種とした理由】

	和名	留意種とした理由
*1	オオルリ	これまで伊豆諸島ではオオルリの繁殖記録はなかったが、近年の調査で神津島において繁殖していることが明らかとなったことから、今後の動向に留意する必要がある。

■小笠原諸島

和名	学名	東京都ランク (小笠原諸島)	環境省 ランク	備考
ミズナギドリ目	PROCELLARIIFORMES			
アホウドリ科	Diomedidae			
アホウドリ	<i>Diomedea albatrus</i>	CR	VU	
コアホウドリ	<i>Diomedea immutabilis</i>	EN	EN	
クロアシアホウドリ	<i>Diomedea nigripes</i>	*1		
ミズナギドリ科	Procellariidae			
シロハラミズナギドリ	<i>Pterodroma hypoleuca</i>	VU	DD	
アナドリ	<i>Bulweria bulwerii</i>	NT		
コミズナギドリ	<i>Puffinus nativitatis</i>	EX		
セグロミズナギドリ	<i>Puffinus lherminieri bannermani</i>	EN	DD	
ウミツバメ科	Hydrobatidae			
オーストンウミツバメ	<i>Oceanodroma tristrami</i>	EN	VU	
クロウミツバメ	<i>Oceanodroma matsudairae</i>	CR	EN	
ペリカン目	PELECANIFORMES			
ネッタイチョウ科	Phaethontidae			
アカオネッタイチョウ	<i>Phaethon rubricauda rothschildi</i>	VU	EN	
カツオドリ科	Sulidae			
アオツラカツオドリ	<i>Sula dactylatra personata</i>	VU	VU	
アカアシカツオドリ	<i>Sula sula rubripes</i>	VU	EN	
グンカンドリ科	Fregatidae			
オオグンカンドリ	<i>Fregata minor minor</i>	EX		
コウノトリ目	CICONIIFORMES			
サギ科	Ardeidae			
ハシブトゴイ	<i>Nycticorax caledonicus crassirostris</i>	EX	EX	
タカ目	FALCONIFORMES			
タカ科	Accipitridae			
オガサワラノスリ	<i>Buteo buteo toyoshimai</i>	EN	EN	
ハヤブサ科	Falconidae			
シマハヤブサ	<i>Falco peregrinus furuitii</i>	EX	CR	
ツル目	GRUIFORMES			
クイナ科	Rallidae			
マミジロクイナ	<i>Poliolimnas cinereus brevipes</i>	EX	EX	
チドリ目	CHARADRIIFORMES			
カモメ科	Laridae			
オオアジサシ	<i>Thalasseus bergii cristatus</i>	NT	VU	
セグロアジサシ	<i>Sterna fuscata nubilosa</i>	NT		
クロアジサシ	<i>Anous stolidus pileatus</i>	*2		
ヒメクロアジサシ	<i>Anous minutus marcusii</i>	EN		
シロアジサシ	<i>Gygis alba candida</i>	EX		
ハト目	COLUMBIFORMES			
ハト科	Columbidae			
アカガシラカラスバト	<i>Columba janthina nitens</i>	CR	CR	
オガサワラカラスバト	<i>Columba versicolor</i>	EX	EX	
スズメ目	PASSERIFORMES			
ヒヨドリ科	Pycnonotidae			
ハシブトヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis magnirostris</i>	*3		
ツグミ科	Turdidae			
オガサワラガビチョウ	<i>Cichlopasser terrestris</i>	EX	EX	
ウグイス科	Sylviidae			
ハシナガウグイス(火山列島個体群)	<i>Cettia diphone diphone</i>	LP		1
ミツスイ科	Meliphagidae			
ムコジマメグロ	<i>Apalopteron familiare familiare</i>	EX	EX	
ハハジマメグロ	<i>Apalopteron familiare hahasima</i>	VU	EN	
アトリ科	Fringillidae			
オガサワラカワラヒワ	<i>Carduelis sinica kittlitzi</i>	CR	EN	
オガサワラマシコ	<i>Chaunoproctus ferreorostris</i>	EX	EX	

和名	学名	東京都ランク (小笠原諸島)	環境省 ランク	備考
カラス科	Corvidae			
ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos japonensis</i>	EX		

和名、学名、配列は、日本鳥類目録編集委員会(編), 2000. 日本鳥類目録 改訂第6版. 日本鳥学会. に準拠した。ただし、ハハジマメグロについては環境省版レッドリストに準じて和名を表記した。

【備考】

1: 硫黄3島のうち硫黄島と北硫黄島ではすでに絶滅し、南硫黄島にだけ残っている状況であり、火山列島の個体群はENに相当する。

【留意種とした理由】

	和名	留意種とした理由
*1	クロアシアホウドリ	最近のノヤギ排除事業により、小笠原諸島では増加傾向にある。しかし世界的には、漁業での混獲による減少傾向があり、IUCNのレッドリストではENに掲載されているため、今後の動向に留意する必要がある。
*2	クロアジサシ	島しょゆえに生息地面積は狭いが、分布は広く、個体数も多い。ただし、西之島の噴火、監獄岩および南鳥島における人為的活動の影響などが生じれば、個体群の存続へも影響する可能性があるため、今後の動向に留意する必要がある。
*3	ハシブトヒヨドリ	特に減少傾向は見られないが、火山列島の固有亜種であり、分布域は狭い。また、南硫黄島は生息環境が安定しておらず、今後の動向に留意する必要がある。